五郎田遺跡（ごろたいせき）現地見学会資料

令和５年（2023 年）10 月 21 日

（一財）長野県文化振興事業団
長野県埋蔵文化財センター

１．はじめに

五郎田遺跡は天龍川右岸の低位段丘上に立地する縄文時代～近世の遺跡です。令和３年から始まった長野県埋蔵文化財センターによる発掘調査により、弥生時代～平安時代の集落跡等の存在が明らかとなってきました。

令和５年度は、西地点（国道 153 号線拡幅）と東地点（リニア中央新幹線）の２か所で調査を行っています。

２．調査の概要

所在地：飯田市座光寺 3993-1 ほか　　立　地：天竜川右岸　低位段丘（およそ標高 420～450m）

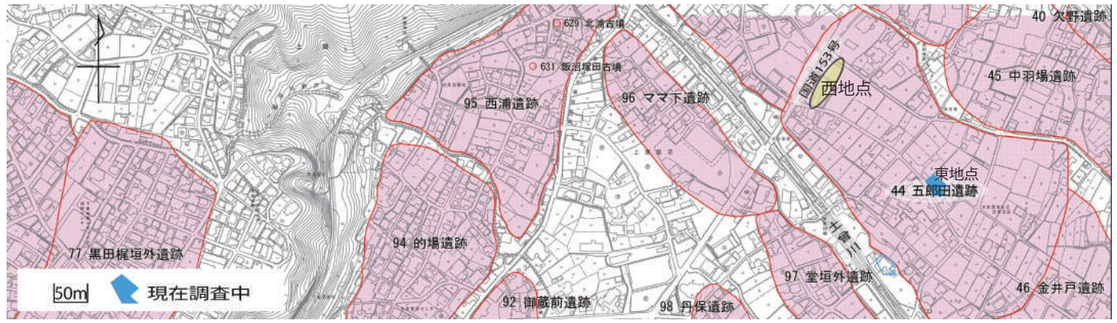
調査面積（令和５年度）：5, 895 ㎡　（西地点 1, 400 ㎡　　東地点 3, 495 ㎡）

調査期間：令和３年度～

主な時期〈遺構〉［遺物］：弥生時代　〈竪穴建物・溝〉　［土器・石器］

古墳時代　〈溝〉　［土器・石器］

奈良・平安時代　〈竪穴建物・掘立柱建物〉［土器（土師器・須恵器）］



３．みどころ

五郎田遺跡西地点では、古墳時代～平安時代の竪穴建物跡や土坑（どこう）が多数みつかっています。また、国道の西側に隣接する正泉寺遺跡方向から流れてくる自然流路跡が確認され、流路の中からは弥生～古墳時代を中心とする土器等がたくさん出土しました。

五郎田遺跡東地点では、大量の弥生土器が出土した溝跡（SD201）がみつかりました。調査範囲内の溝跡の大きさは長さ 56m、幅約 5m、深さ約 1.7mあります。溝跡内の弥生土器が出土する地層は上層・中層・下層の３つの層に分けることができ、弥生時代中期～後期初頭（約 2100～1900 年前）の間に３回にわたって、土器が捨てられたか、または置かれたと考えています。

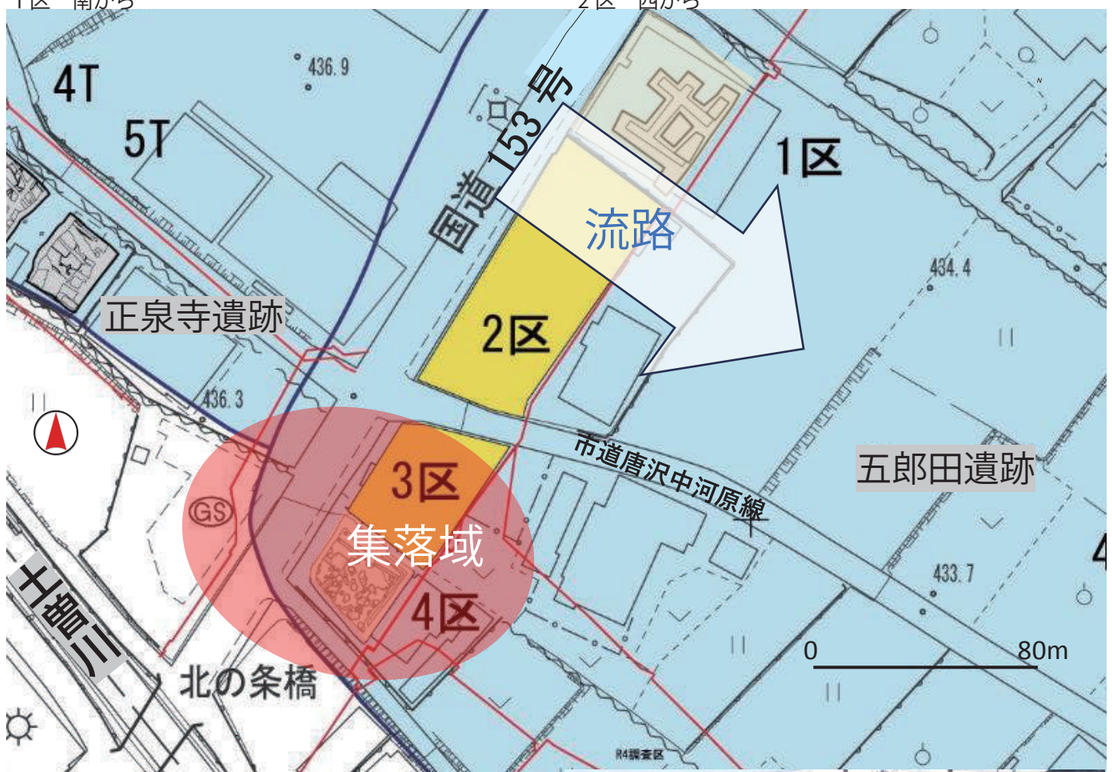
この溝跡は自然の流路を人間が利用したものと考えています。しかし、その利用方法に不明点が多いため、今後、地層や遺物の出土状況、珪藻化石（けいそうかせき）の分析を行い、明らかにします。

溝跡以外には弥生時代後期（約 1800 年前）の竪穴建物（たてあなたてもの）跡や、古墳時代～平安時代の掘立柱建物（ほったてはしらたてもの）跡もみつかっています。弥生時代後期の竪穴建物は溝跡（SD201）を避けて建てられていますが、古代の遺構から、埋まった溝の上に建物を建てていたことがわかります。

≪西地点≫

１区　南から

２区　西から

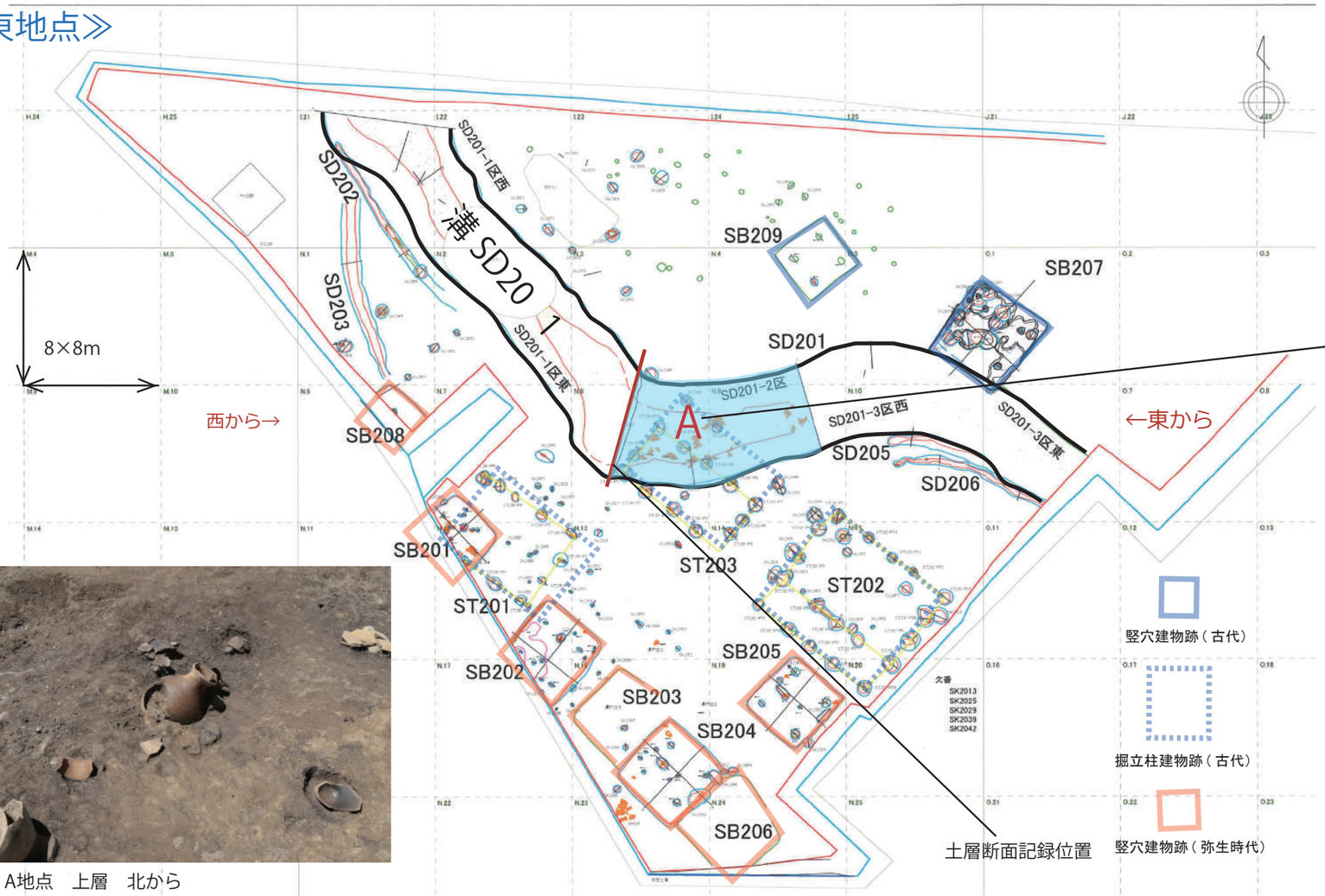


３区　北から

４区　北から

国道 153 号拡幅地点の調査は 8 月 31 日に終了しました。

≪東地点≫

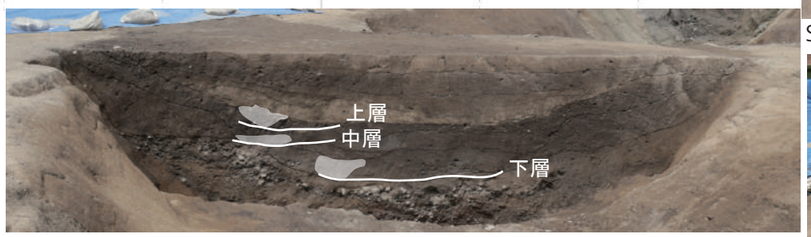


SD201 A地点　上層　東から

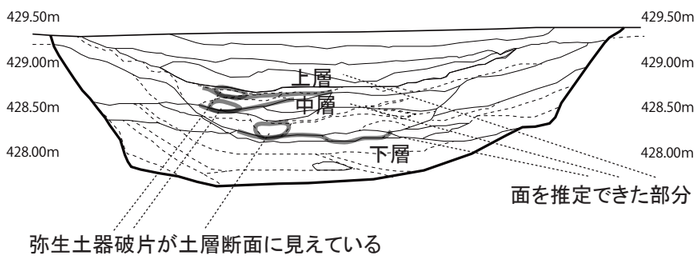
SD201 A地点　上層　北から

SD201 A地点　中層　東から

SD201 全景　東から



SD201 の土層断面　弥生土器がまとまって出土する土層



SD201 A地点　下層　東から